

ぶどう園その2

マタイ福音書 21:28-32

(そのとき、イエスは祭司長や民の長老たちに言われた。) 「あなたたちはどう思うか。ある人に息子が二人いたが、彼は兄のところへ行き、『子よ、今日、ぶどう園へ行って働きなさい』と言った。兄は『いやです』と答えたが、後で考え直して出かけた。弟のところへも行って、同じことを言うと、弟は『お父さん、承知しました』と答えたが、出かけなかった。この二人のうち、どちらが父親の望みどおりにしたか。」彼らが「兄の方です」と言うと、イエスは言われた。「はっきり言うておく。徴税人や娼婦たちの方が、あなたたちより先に神の国に入るだろう。なぜなら、ヨハネが来て義の道を示したのに、あなたたちは彼を信ぜず、徴税人や娼婦たちは信じたからだ。あなたたちはそれを見ても、後で考え直して彼を信じようとしなかった。」

説教

先週に引き続き「ぶどう園」のたとえ話です。

聖書の約束事のひとつにぶどう園とくれば「天国」のこと、ぶどう園とはズバリ天国のたとえです。先週の福音はぶどう園で朝から働いても、昼からでも、最後にちょっとだけ働いても同じ金額の給料が支払われるという気前のいい神さまの話、天国版ベーシックインカムのようなたとえ話でした。

きょうの福音はぶどう園をめぐる父と兄、弟の三人のたとえ話となっています。息子にぶどう園にいつて働けというと、口ではいやだといったけれど後で考え直してぶどう園に行ったお兄ちゃん、ハイといい返事をするけれど実際は働きにいかない弟のたとえ話で、イエスはあなたたちユダヤ人指導者

(祭司長や長老) は弟と同じで返事はいいが実際はなにもしない、だから天国には入れないと結んでいます。

子どもたちにぶどう園に行きなさいという父親はおそらくぶどう園の経営者

でしょう。兄はぶどう園にいきますが彼は「後で考え直して」いくわけですから、ぶどう園についたのは早くて10時、おそければ12時、15時ってこともありそうです。先週のたとえ話でいえば、ちょっとしか働かないのに1デナリ支払われたラッキーな労働者と似ています。この兄弟が経営者の息子だとするとぶどう園に行っても野良仕事をしたでしょうか。顔をだして「ごころうさん」と挨拶しておけば、それでいいぐらいなのかもしれません。弟は要領がいいのでハイと返事して行かなかった。行ってもいかなくても同じだし、まずバレないとでも計算したのでしょうか。しかしイエスにはお見通しでこのたとえ話で弟は悪者扱いされています。

じつはこの話には続きがあって（来週の福音箇所）息子はぶどう園に行くのですが、いろいろないきさつがあってついには殺されるというおそろしい話になっています。二つのたとえ話をつなげてしまえば、ぶどう園にいった兄は殺され、返事だけして実際はぶどう園に行かなかった弟は生き延びたということになります。父からして見れば、いいつけに背いた弟が生き残ったので結果的にはオーライ、弟の機知が悲しむ父の助けになっています。

イエスのことばはさまざまな内容、深い意味をもっています。ことばの一つひとつをそのまま鵜呑みにするのではなく、あの時はこういった、この時はああいったという吟味が必要でしょう。ふりかえってみればわたしたちの生活、人生も単純ではありません。いろいろなことが重なって良くもなり、悪くもなることだらけです。きょうは悪者にされている弟も、あすは見直されるのかもしれませんが。わたしたちの実際の生活がイエスのことばに助けられるよう、支えになるように祈りましょう。
